

- ① …「2020年度埼玉県第4種リーグ戦」開幕 埼玉から3クラブの参入が決定～「WEリーグ」
- ② …待ちに待っていました～サッカーのある生活が幸せ 県内競技会開催状況
- ③ …大会記録●県内大会 1種・3種・4種・女子・シニア・フットサル
- ④ …大会記録●県外大会 1種・女子・シニア・フットサル
- ⑤ …「組織の醸成を目指して」～退任の挨拶 岡田泉前審判委員長（大宮東高校）
- ⑥ …就任して2年 ～貴田浩朗・財務委員長に聞く～
- ⑦ …登録費はSFAだけでなく連盟、市町FAにも ～坂庭泉・専務理事～
- ⑧ …埼玉県トレセン～2020年度 活動方針 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

「2020年度埼玉県第4種リーグ戦」開幕

本来ならば、4月当初開幕でした「2020年度埼玉県第4種リーグ戦」が9月5日からスタートしました。443チームが52ブロックに分かれて、県内各地で一生懸命自分たちの力を発揮しています。

今回は1回戦総当たりのみとなりましたので、10月中にはほぼリーグ戦は終了し、各ブロックの1位チームが11月23日からの「第14回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会」に出場します。



埼玉から3クラブの参入が決定～「WEリーグ」

10月15日、2021年秋からスタートする日本女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」への参加が承認された11のクラブが発表されました。この全11クラブの中に、埼玉県から浦和レッドダイヤモンズレディース（なでしこリーグ1部）、ちふれASエルフェン埼玉（なでしこリーグ2部）、そして大宮アルディージャ（新設）が決定しました。

全国的に見ても、少女から高校まで幅広く女子サッカーが盛んな

埼玉県から「WEリーグ」の理念である「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。」を日本へ、そして世界へ発信してくれることを期待しています。

詳細については各クラブから随時発表があります。埼玉県的女子サッカーにさらにご注目ください。

待ちに待ってました～サッカーのある生活が幸せ

もう10月を迎え、暑かった時期を懐かしく感じてしまいます。あっという間に終わった短い夏休みを経て、晩夏ようやく県内でも子どもたちの笑顔に出会うことができました。もちろん、大人たちも中高生の皆さんも、できる範囲の中で粛々と練習に励んできたと思います。ただ、不幸にもそれを見てもう場が無かったただけなのです。やはり、試合ができてこそ「サッカー」ですね。

まだ、すべてが解決した訳ではなく、残念ながらまだまだ新型コロナウイルスに感染される方はいらっしゃいます。そんな中で、しっかりと健康管理をした皆さんだから、今、ボールを蹴る喜びを再び味わうことができたのではないのでしょうか。サッカーは一人ではできません。仲間がいて、相手チームがあって、さらに関わってくれる審判などがいてくれてこそ、です。健康に感謝、安全に感謝。しっかり乗り切ってください。

県内競技会開催状況

【1種】

社会人

第54回関東社会人サッカー大会代表決定戦

8月23日～10月18日

※今季の1部リーグ所属10チームによる1回戦総当たり戦。上位4チームが本県開催の「第54回関東社会人サッカー大会」に出場する。2部、3部所属チームは「交流戦」に参加中。

大学

2020年度 埼玉県大学サッカーリーグ1部

9月12日～11月1日

※1回戦総当たり戦で開催。2部リーグは日程調整中

【2種】

高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ2020 関東

9月5日～12月6日

高円宮杯 JFA U-18 サッカープリンスリーグ2020 関東

9月5日～12月13日

高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ2020 埼玉

9月5日～11月29日

【高体連】

令和2年度 第99回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会 一次予選

9月6日～20日

令和2年度 第99回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会

【3種】

高円宮杯JFA U-15サッカーリーグ2020 埼玉 第13回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ

2020年 第9回埼玉県ユース(U-13)サッカーリーグ

※クラブユース連盟のホームページでご確認ください

【中体連】

令和2年度埼玉県中学校新人体育大会

【クラブユース】

第30回埼玉県クラブユース(U-14)サッカー選手権大会

9月6日～2021年1月30日

【4種】

第14回埼玉県第4種リーグ戦

9月5日～10月

【女子】

2020年度 第28回埼玉県女子サッカーリーグ大会

8月9日～2021年2月28日

第25回埼玉県女子ユース(U-15)サッカー大会(兼)第25回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会埼玉県予選

【シニア】

県O-40 サッカーリーグ

9月6日～12月13日

県O-50 サッカーリーグ

9月13日～12月13日

県O-60 サッカーリーグ

9月6日～12月20日

【フットサル】

第20回埼玉県フットサルリーグ1部 2020

8月2日～12月20日

第18回埼玉県フットサルリーグ2部 2020

8月1日～12月27日

第11回埼玉県フットサルリーグ3部 2020

8月8日～10月4日

第17回埼玉県女子フットサルリーグ2020

8月29日～2021年1月16日

JFAユニクロサッカーキッズin 埼玉

10月3日、メットライフドームにて25チーム350人ほどの参加でしたが、「JFA ユニクロサッカーキッズ in 埼玉」を開催しました。十二分な新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い、保護者の皆さんにもご協力をいただき、無事終了しました。ここでの喜びや自信が子どもたちの健全な成長に一助になることを願っています。サッカー、続けてください。



大会記録 ● 県内大会

1種

第54回関東社会人サッカー大会代表決定戦

8月23日～10月18日

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	TIU	27	9	0	0	34
2	アヴェントゥーラ川口	19	6	1	2	22
3	大成シティFC坂戸	18	6	0	3	-7
4	ドリームス	17	5	2	2	15
5	与野蹴魂会	12	4	0	5	2
6	クマガヤSC	12	4	0	5	0
7	ACアルマレッザ入間	11	3	2	4	6
8	江南BSA	10	3	1	5	-20
9	大里FC	3	1	0	8	-25
10	越谷FC	3	1	0	8	-27

※上位3チームと5位の与野蹴魂会が、11月に埼玉県で開催される「第54回関東社会人サッカー大会」へ出場する

3種

高円宮杯JFA第32回全日本U-15サッカー選手権大会埼玉県予選

9月5日～21日 県内各地

ACアスミ	1	第1代表	東松山ペレーニア	1	第2代表
武南ジュニア	0		FC深谷	0	
坂戸ディプロマツ	6	第3代表	FCアビスタ	0	第4代表
GRAMADO FC	0		BOCA HANNO	延長 1	
ACアレグレ	0	第5代表	FC KASUKABE	5	第6代表
南浦和中学校	1		成立ゼブラ	1	
草加ジュニア	1	第7代表			
クマガヤSC	5				

※各代表チームは関東大会に出場する

4種

第18回埼玉県少女サッカーフェスティバル決勝トーナメント

10月4日 大島新田サッカー場

FCバルセイロ毛呂山レディース	0(0)		熊谷リリス少女サッカークラブ	0(0)	
東大宮エンジェルス	1(0)		戸木南ボンバーズFC	1(0)	吉見
狭山女子FC	0(1)		大宮日進SSレディース	0(0)	
吉見エスカーラFC	1		FC戸塚ガールズ	0	

※優勝は吉見エスカーラ

女子

第25回埼玉県埼玉県女子U-15サッカー大会 兼

第25回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会埼玉県予選

9月13日～10月18日 熊谷スポーツ文化公園補助競技場他

白岡SCL	11		1FC川越メニーナ	8	
カサブランカ	5		フェミニノ川越	1	
シュエット	0		飯能ブルーダー	1	
エルフェン埼玉	5		クマガヤSCライラック	7	
大宮FC	1		クラブ与野レディース	11	
越谷LF	2		SEフィリア	1	
GRAMADO	4		十文字ベントス	6	

※優勝は十文字ベントス

令和2年度高校女子サッカー選手権大会

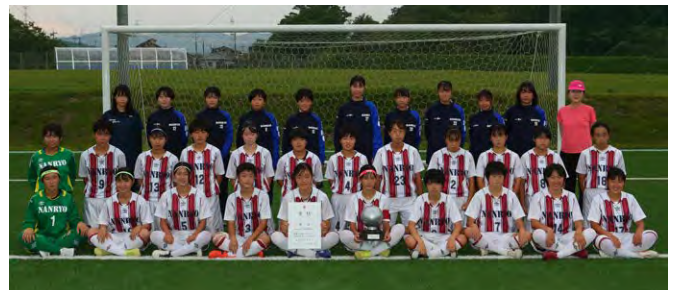
～9月27日

花咲徳栄	12	0	山村学園	2	
埼玉平成	0	0	川口市立	0	
秋草学園	0	0	川越南	0	
浦和実業	6	0	浦和西	5	
本庄第一	7	2	松山女子	3	
久喜	0	0	市立浦和	0	
聖智深谷	1	0	宮代	0	
入間向陽	5	0	南稜	16	

※1・2位のチームは全日本高校女子サッカー選手権大会につながる関東大会へ出場、3・4位のチームは秋季関東大会へ出場する



優勝 本庄第一



準優勝 南稜



決勝 本庄第一 vs 南稜

フットサル

JFA 第17回全日本女子フットサル選手権大会埼玉県大会

8月9日

1回戦 武南高校フットサル部 1-4 AOHレディースFC

代表決定戦

アンビジョン 3-1 AOHレディースFC

※優勝したアンビジョンが関東大会へ出場する

JFA 第26回全日本U-15フットサル選手権大会埼玉県大会

8月30日～9月20日

●予選リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	FFCエストレーラ川口	9	3	0	0	10
2	Futbol club Cano	6	2	0	1	4
3	ロク・フットボールクラブ	3	1	0	2	-2
4	If Levante Futebol Clube	0	0	0	3	-12

●決勝戦 FFCエストレーラ川口 4-2 Futbol club Cano

※優勝したFFCエストレーラ川口は関東大会へ出場する

大会記録 ● 県外大会

1種・社会人

天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会

9月16日 ひたちなか市総合運動公園陸上競技場

1回戦 筑波大学 2-0 東京国際大学



東京国際大学



1回戦 東京国際大学 vs 筑波大学

第54回関東サッカーリーグ2部 全日程終了

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
9	さいたまSC	7	2	1	6	-11
10	東京国際大学FC	6	1	3	5	-9

※本年度は特別なレギュレーションとなり、県リーグへの降格はなし



さいたまSC vs 東京国際大学



さいたまSC vs 横浜猛蹴

第27回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会

9月19日~21日

準決勝 江ノ島フリップーズ 0-2 杉戸クラブ

決勝 習志野シティFC 3-0 杉戸クラブ

※杉戸クラブは準優勝。優勝した習志野シティFCが本大会に出場する



準優勝 杉戸クラブ

大学

「アミノバイタル®」カップ2020 第9回関東大学サッカー トーナメント大会 プレーオフ

8月29日~30日

朝鮮大学校 0-1 平成国際大学

尚美学園大学 1-0 江戸川大学

城西大学 4-0 足利大学

※埼玉県勢は3チームとも本大会に出場する

「アミノバイタル®」カップ2020 第9回関東大学サッカー トーナメント大会

9月26日~11月3日

1回戦

桐蔭横浜大学 5-1 平成国際大学

東京国際大学 1-3 筑波大学

早稲田大学 2-1 城西大学

法政大学 3-1 尚美学園大学

女子

第42回関東女子サッカー選手権大会 兼 皇后杯 JFA 第42回 全日本女子サッカー選手権大会関東地区予選

9月12日~27日

1回戦 浦和レッズレディースユース 0-1 十文字高校

東京国際大学 0-1 日テレ・東京ヴェルディメニータ

※優勝は群馬 FC ホワイトスター。上位6チームが本大会に出場する



東京国際大学 vs 日テレ・東京ヴェルディメニータ

シニア

JFA 第19回全日本O-50サッカー大会関東予選会

10月11日 栃木県グリーンスタジアム

Bブロック

1回戦 ラッツォス古河FC 2-0 セレソン所沢シニア

敗者戦 セレソン所沢シニア 1-1 栃木教員マスターズ (5PK4)

※A組は四十雀クラブ東京50、B組はラッツォス古河FCが勝ち上がり、本大会へ出場する

フットサル

JFA 第17回 全日本女子フットサル選手権大会 関東大会

9月12日~19日

1回戦 アンビジョン 2-3 ヴィエントFC(神奈川県)

2回戦 東京府中アスレチックスFCレディース 1-4 さいたまサイコロ

準決勝 ヴィエントFC 0-5 さいたまサイコロ

決勝 バルドラル浦安ラス・ポニータス 3-1 さいたまサイコロ

※さいたまサイコロは準優勝。上位3チームが本大会に出場する

「組織の醸成を目指して」～退任の挨拶

岡田 泉 前審判委員長(大宮東高校)

長く審判委員会の「顔」として活動してこられた岡田前委員長がこの春、退任されました。途中、副会長の重責も兼任し、JFAの評議員としても名を連ねていました。副会長としては留任した上で、ひとまず落ち着いたところで振り返っていただきました。(聞き手/広報委員 荒川裕治)

唐突な委員長就任

—思い起こせば、委員長就任は急でした。

岡田 当時、高体連サッカー専門部の審判委員長でありました私にとっては確かに急な出来事でした。前任者の黛俊行氏(現、JFA審判委員長)が、JFAの審判委員会の指導部に請われました。Jリーグでの審判活動が認められ教員を辞めてJFAに入るため、審判委員長も降りることになりました。後任として、Jリーグで主審としても活躍された濱名哲也氏(サッカー1級審判インストラクター、SFA審判副委員長)、県中体連で長く活躍されている齋藤由雄氏が候補に挙がっていたと後で聞きましたが、黛さんに呼び出されて「お前しかいない」と言われ、引き受けることとなりました。黛氏は任期を一年残していたので、私は2007年の4月に就任したことになります。



岡田 泉氏

—それまでの審判委員会をどうぞ覧になっていましたか。

岡田 当時私は、県高体連の審判部長を務めながら、県審判委員会の中でも育成強化担当でしたので、委員会の一員ではありませんでした。

長く、山北泰氏が委員長を務められ、その中で積極的に若手を登用して2級、1級へと押し上げてきていました。ただ、組織を通じてピックアップするのではなく、まさに「一本釣り」だったのを、黛氏が委員会を「組織化」して前に進めていました。みんなで育てていく、とでも言えばいいでしょうか。そのために仲間の方々に必要なポジションについてもらい、組織として活動を始めたところでした。ですから、私としては、できていた組織を醸成、固めていくというのが、最初の方向性でした。

しかしながら、高校の教員として高体連しか知りませんでした。長い間競技者として社会人としてプレーし、審判としてJリーグも担当しましたが、それは10年以上前の話です。まずは県内の「サッカー」がどうなっているのか、自分の目で見ることにより本県サッカーの課題をとらえるため視察から始めました。それに、組織をさらに熟成するにも「人」が必要です。そもそも、どこに誰がいるかわからないのですから。自分なりの変化、改革を進めるためにも、できる限り各カテゴリーを回りました。

—当時は「女子を見てきた」「フットサルに行ってきた」という話をよくお聞きしました。

岡田 当時もそれぞれ担当者はいましたが、やはり自分で見ないといけないと思い行動を起こしました。

—各カテゴリーを回って、何を感じられたのでしょうか。

岡田 視察している中で考えたのは、今まで本県審判委員会の育成強化担当として自分がやってきたことが、本当に日本の、埼玉のサッカー界にとって、役に立ったのかどうかということでした。

その上で見て回り、審判の皆さんがその場その場で一生懸命に審判活動をされていたことには感心させられました。私が審判委員長についた頃は、グラウンドの脇のところで着替えて準備して、当時は「リスペクト」も何もありませんから、試合では文句を言われるばかり。でも、担当された審判員の皆さんがひたむきに、様々なことをガマンしながら埼玉のサッカーのために活動してくれているのを見て、ただただ「偉いな」と思いました。確かに昔は自分も厳しい環境の中

で審判をしていたことがあります。それでも高体連であれば控え室はありますし、選手は高校生で自分は教員という立場の中で担当していたわけですからね。当時思ったのは、「俺にはできないなあ」ってことでしたね。

—確かに「リスペクト」は最近と言われれば最近ですね。まだ10年前だと厳しかったんですね。

岡田 先週末、関東大学の試合の審判インストラクターを担当しましたが、大学レベルになると、ベンチは落ち着いていますね。大人の振り舞いをしています。一部の種別では……まだまだですね(苦笑)。まずは審判を「リスペクト」しないとサッカーは成り立たないと思います。

新規事業の立ち上げ

—振り返ると、いろいろな事業を始めたのではないのでしょうか。例えば「アフター10」とか。

岡田 「アフター10」は横山前会長からの要請で始めました。4種リーグの質を高めるために試合後に両チームの監督に来てもらい、試合を振り返るというものです。プレー的によかった(特に子供たちの判断とポジティブなコーチング)ところ、改善したほうが良いことを意見として出し合い、次の試合に活かしてもらうという意図で行っています。上位の決勝トーナメントくらいでしかできていませんが、現状のやり方はそろそろ考えなくてはならないと思っています。

というのは、若い審判はどうしても競技経験が少なく、最近の審判インストラクターも競技経験が少ない。そのために「ゲームを見る目」というのが、どうしても審判目線になりがちです。だから、この「アフター10」の担当には審判インストラクターだけでなく、技術委員会にも協力していただき、派遣してもらっています。ただ、まだまだ数が足りません。あとは、この「アフター10」の意図が伝わり切れていないところが課題だと思っています。

—やはり各ブロックでのリーグ戦から行わないと浸透するのは難しいのではないのでしょうか。また、両チームから出席するのが監督ではないことも多々あります。結局、「浸透していないから」なのですが、そもそも「なぜリーグ戦をするのか」「なぜM-T-M(マッチートレーニングマッチ)をするのか」という意識がやや薄まっているからなのかもしれません。

あとは、市町F.A.の審判委員長会議もありましたね。

岡田 市町F.A.種別審判委員長会議は、私が審判委員長になってから始めた事業です。今年は、新型コロナ感染防止の観点からWebでの開催となりましたが、続けています。審判員の多くは4級審判の皆さんで、かつ所属は市町F.A.や種別なんです。それぞれの審判員の方々は、各種連盟や市町の大会等で活躍していただいています。ただ、組織としての活動があまり見えていないということと、県審判委員会がどう考えているのか、さらにはJFAの審判委員会からの通達の解説、そして懇親も含めて開催しています。こういう活動を通じて、審判員の資質向上を個人任せにせず、組織でサポートしていただきたいと考えています。やはりより良いサッカー環境を構築していくためにも審判となったのであれば、4級から3級へ、3級から2級を目指していただきたい。そういうやる気のある人財を県審判委員会でもバックアップしていきますが、市町F.A.も一緒にやって盛り上げていただきたいものです。

—元々は繋がっている人たちの集まりですよ。これだけのサッカー人口がいるのですから、選手はもちろんですが、審判の才能を持った人財もいるわけです。そういう人たちが活動しやすい、また手

を挙げやすい環境を作っていくことは大事なことです。

そうそう、ユース審判員の育成にも力を入れてきましたね。

岡田 あれは木村康弘氏（入間向陽高校）がやってくれたことです。まさに「組織は人」と言ってもいい事業ですね。実際に高校生のユース審判員に試合を担当してもらい、それを宿泊研修という形で、次世代の審判員を育成してくれています。こういう連続性というか、若い時期からの高い意識が、日本の審判員のレベルアップに繋がっていくと思います。ただ、プレーヤーとしても続けてほしいんです。先程も触れましたが、若い審判の多くは競技経験が少ないのが課題なのです。審判としての立場であれば、審判の目線というのは大事ですが、翻って「選手はどう思っているのか」「選手は何を狙っていたのか」という、選手の意図も感じることができる審判であってほしいと願っています。

—審判もまた、選手をリスペクトできるかどうか、ということですね。まだいろいろあるでしょうが、これまた横山さんの肝入りで始めましたが「試合中文句を言わない」ですね。主体はフェアプレー・規律委員会ですが、審判委員会にも大きな影響があったと思います。

継続、進化

岡田 インパクトはありましたね。ただ、審判の判定に文句を言わないと捉えられることが多く残念です。今も試合会場でバナーを張り出していると思いますが、これを進化させなければならぬと思っています。また受け継がれていかないといけないものだと思います。ここはSFA全体の意識として、もっと盛り上げていかなければいけませんね。

—副会長としては継続されていますので、よろしくお祈りします。最後にこれから、さらに木村滋委員長（上尾橋高校）に期待することを願います。

岡田 委員長を離れたことで、今まで以上にいろいろな角度から埼玉サッカーというものを見られると思っています。そのことでSFA各委員会の連携を深めることができるものと思います。まだ審判の強化に携わらせてもらっていますが審判目線だけでなくリスペクトあふれる魅力ある埼玉サッカー構築のために力を発揮していきたいと思っています。

あと組織の熟成ですよ。部会を立ち上げて、人財を揃えたことでピラミッドは固まったと思います。黨氏が作られたものを強固にできたのではないかと自負しています。

委員長になってもう一つ考えたのは、次の人財育成でした。合わせて、次の人たちが力を発揮できる環境作りです。そんなことを考えながら、木村さんにはボランティア同様にあちらこちら付いて来てもらいました（苦笑）。その中で木村さんも感じてくれたことがあったでしょうし、考えたことがあったと思います。木村新委員長の下で、メンバーの皆さんがいい刺激を受けて、それぞれが持てる力を十二分に発揮していただければ、さらに埼玉の審判のレベルは上がると思います。また、木村審判委員長には、リーダーシップを発揮していただき方向性を見失うことなく審判委員会ならびに協会の発展に尽力していただけると期待していますし楽しみにしています。また、これからもよろしくお祈りします。



就任して2年 ～貴田 浩朗・財務委員長に聞く～

公益財団法人として健全経営が求められる中、あまり表には出ていられないかもしれませんが、「要」を担っていただいているのが貴田財務委員長です。就任当初は右も左もよくわからず、という状況のようでしたが、一期終えたところでの感想とこれからのことについて語っていただきました。

（聞き手 広報委員／荒川裕治）

実体験として勝ち抜くのが難しい

—勤務されている埼玉縣信用金庫様には協賛もいただき、様々な形でSFAの事業をサポートしていただいています。ありがとうございます。さて、就任されて2年経ちました。ざっくり振り返っていただきながら、現状をお知らせください。

貴田 そもそも私がこの場にいるきっかけは、2009年に遡ります。当時の横山謙三会長から「今後は民間企業との付き合いも広げていきたい」とのことで弊社にいらっやして、前任者——松本利春（元総務委員長）、小高達朗（前財務委員長）などがお手伝いさせていただくようになりました。こちらとしてはすでに4種リーグの協賛もさせていただき、組織は別ですが県少年団大会でもご協力していました。CSR（企業の社会的責任）の意味合いもありましたので、お引き受けした次第です。

そんな中、前任者である小高の定年もあり、役員から「行ってこい」と言われて私が引き継がせていただきました。もともと小学校4年生からサッカーを始め、中高と続けて大学では同好会でプレーし、社会人、今もシニアで現役です。

—ちなみにどちらでプレーされていますか？



貴田 浩朗氏

貴田 チーム名はご勘弁ください。大学の同好会のOBチームですので、登録は東京都です。なので、そもそもサッカーに関わりがない訳ではなく、周りも知っていましたので断れなかったんですね（苦笑）。

—登録もされていれば、JFAと47FAの存在、関係性もご存知だったんですね。

貴田 そうですね、SFAの存在も知ってはいました。ただ、来てみたら周りに実績や経験のある人たちがばかりがいっぱいだったので、最初はなんとも居心地の悪さもありました（笑）。まあ、それもこの2年で馴染めて来たというか、事務局の皆さんも含めて優しく接していただいたので、継続できていますね。

—それはなによりです（笑）。さて、そもそも埼玉のサッカーのイメージは、どのようにお持ちでしたか？

貴田 サッカーの競技人口は多く、レベルが高い。あと実体験として、トーナメントを戦うにもなかなか勝ち抜いていけない記憶が残っています。

—その上で、埼玉のサッカーの現状をどう見ていらっしゃいますか。

貴田 なかなか試合などを見る機会はありませんが、立場上、4種リーグと県少年団大会準決勝と決勝は見ています。自分の頃と比べてはいけませんが、あの舞台に立つ子どもたちは小学生とは思えない技術、戦術のレベルが高いですね。まったく変わって来ています。具体的に言えば、ボールタッチ、トラップの巧さですね。これは本当に巧くなったと思います。それに伴い、グラウンドもよくなり、恵まれていますよね。うらやましいです。

急務は財政の透明化

—なるほど。ただ、グラウンドを含めた試合環境の変化は、シニアで、それも東京都でプレーしていても実感されることはありませんか

貴田 確かに。東京都のシニアリーグも駒沢公園の人工芝グラウンドなど、各地で人工芝のグラウンドで試合をしています。いい環境でサッカーを楽しませてもらっています。私は「キャプテン翼」世代で、Jリーグが開幕してからここまでの劇的な変化も見てきましたが、この変化はすごいと思います。ですから、埼玉でもこれからもっとグラウンドを作れるよう貢献していければと思っています。



ただ、サッカーそのものへの興味・関心を持つ人が若干減少しているように感じています。これはスポーツだけ見ても、他種目のプロ化などあるからなのでしょう。分散しつつあるようには見受け

られますね。

—他種目もサッカーを目標に進化していると思います。ならばサッカーは、さらに先に行くよう努力していかなければなりませんね。

さて、実務的な話をお聞かせいただけますか。

貴田 はい。実はこれまで業務としては、お預けいただいた預貯金の運用を長く務め、今はリスク管理の業務を行っており、正直言って、決算書などは見ることはあっても自分で作成したことはないですね。

今、SFAにおいては一ヶ月に一度程度ですが、定期的に財務状況を拝見しつつ、事務局から求められる範囲の中でアドバイスしています。あとは評議員会や理事会での予算の説明でしょうか。ただ基本的には事務局の狩野さんたちにまもっていただいた資料を読んでいるだけですけれど（苦笑）。その中で思うことは、財務の透明化は急務であることでしょうか。組織としてだけでなく、一つひとつの大会ごと、イベントごとでそれぞれ収支をはっきりさせることが求められています。その一つひとつがまだまだあいまいな物が多いように思われます。ぜひ、財務の透明化に向けて、ご協力をお願いします。

SFAの現状ですが、少ないながらも利益をあげており、健全な経営はできていると認識しています。正直なところ、2年経ち、ようやく全容がわかりはじめた感があります。SFAの発展に寄与してまいりたいと思います。よろしくお願いたします。

登録費はSFAだけでなく連盟、市町FAにも ～坂庭 泉・専務理事～

SFAの財務状況についてです。収支状況においては公式ウェブサイトをご覧ください。

SFAの収入のメインは登録料収入です。現状、カテゴリー的に見てシニアは登録者数が増えています。他のカテゴリーについては減少傾向にあります。全体的に来年度は厳しい業況におかれる可能性があります。現段階ではなんともいえません。事業収入としては、SFAフットボールセンターの収入と日本代表戦などの主管試合での収入がありますが、これらも減っています。もう一つ、JFAからの補助金があります。ただ、これがどのくらい入ってくるかは見えないのが現状です。一時増額されましたが、2年ごとの見直しと共に、今年度は新型コロナウイルスの影響でJFAもかなりの影響を受けています。どのようになるのかは、JFA次第というところ。

しかしSFAとしては事業収入を中心にしておらず、登録料収入の中でなんとか運営できているという状況というのをご理解ください。そんな中、いくつかご承知していただきたいことがあります。

一つは、各チーム、選手の皆さんに納めていただいている登録費についてです。SFAへの「登録費」は別表にてご確認ください。JFAへの登録費はSFAを通じてJFAに支払っています。ただ、皆さんは各市町FAにも登録し、各種別連盟にも登録、また大会に出場する際はエントリー料を支払っていると思います。「登録費」に関してはSFAに振り込まれるため、「すべてSFAに入っている」と誤解されている方もいらっしゃると思いますが、SFAから各市町FA、各種別連盟の登録費はそれぞれの団体へ、エントリー料も各団体へ振り込まれているということ、改めてご理解いただきたいと思います。ぜひ、この機会にチームが支払っているお金についてご確認くださいと思います。

二つ目は、大会参加費などの値上げについてです。以前は、グラウンドを一日借りてもラインを引く石灰代として3,000円くらいの負担だったと思います。しかし、他施設に比べて安いとはいえ、SFAフットボールセンターも1時間5,000円かかります。どうしても以前よりはお金がかかるのです。さらにイベントも増えています。なんとかやりくりしているのですが、ある程度の受益者負担をお願いしなければならない状況にあることをご理解ください。

三つ目は、コンプライアンスです。財務の透明化については、この数年、各種別の委員長、経理担当者の皆さんには重ね重ねお伝えしています。しかし全体的に見ると、精算できない領収書、収支の不明確な収支報告書が提出されているのが実状です。この点に関しては、貴田財務委員長にしっかり管理してもらいながら財務の透明化を進めているところです。ご協力よろしくお願いします。

【サッカー】

種別区分	チーム登録料					個人登録料(1人につき)				
	JFA	機関紙	県協会	連盟費	計(円)	JFA	県協会	連盟費	計(円)	
1種	社会人	7,000	5,000	4,500	10,500	27,000	2,000	800	300	3,100
	自治体	7,000	5,000	4,500	—	16,500	2,000	800	—	2,800
	大学	7,000	5,000	4,500	20,000	36,500	2,000	800	—	2,800
	専門学校・その他	7,000	5,000	4,500	—	16,500	2,000	800	—	2,800
2種	高校	2,500	5,000	3,000	10,000	20,500	1,000	500	—	1,500
	クラブユース	2,500	5,000	3,000	—	10,500	1,000	500	—	1,500
3種	中学	2,500	5,000	2,000	—	9,500	700	400	—	1,100
	クラブジュニアユース	2,500	5,000	2,000	※注	9,500	700	400	※注	1,100
4種	少年	2,500	5,000	2,000	※注	9,500	700	400	※注	1,100
	クラブ	2,500	5,000	2,000	※注	9,500	700	400	※注	1,100
女子	一般・大学	7,000	5,000	2,500	6,000	20,500	2,000	800	—	2,800
	高校・クラブユース	2,500	5,000	2,500	6,000	16,000	1,000	500	—	1,500
	中学・クラブユース	2,500	5,000	2,000	6,000	15,500	700	400	—	1,100
シニア	60歳以上	—	—	—	—	—	1,500	0	※注	1,500
	59歳以下	7,000	5,000	3,500	※注	15,500	1,500	500	※注	2,000

※注 連盟登録費は、チームから各連盟へ直接支払い。

【フットサル】

種別区分	チーム登録料					個人登録料(1人につき)						
	JFA	機関紙	日本連盟	県協会	連盟費	計(円)	JFA	日本連盟	県協会	連盟費	計(円)	
1種	関東1県1~4都	3,000	5,000	2,000	2,000	2,000	14,000	1,000	2,000	700	700	4,400
2種	U-18	2,000	5,000	2,000	1,000	1,000	11,000	700	0	400	400	1,500
3種	U-15	2,000	5,000	2,000	1,000	1,000	11,000	500	0	300	300	1,100
4種	U-12	2,000	5,000	2,000	1,000	1,000	11,000	500	0	300	300	1,100

埼玉県トレセン～2020年度 活動方針

JFAトレセン埼玉U-13

ヘッドコーチ	清水雄斗 (日高市立武蔵台中学校)
コーチ	大野恭平 (さいたま市立浦和高校)
コーチ	白倉裕三 (川口市立青木中学校)
コーチ	馬場 茂 (朝霞エステレーラ)
コーチ	土居 智 (Bruder SV)
コーチ	須貝 涼 (鴻巣西中学校・杉戸ゼウス FC)
コーチ	中道寛人 (GRAMADO FC)
GKコーチ	三上綾太 (所沢 Jr コース)
トレーナー	畠中陽介 (JIN 整形外科スポーツクリニック)

●活動方針

Vision (構想・未来像) ……世界基準の選手

Aim (目的) ……強化・発展・発掘・環境

Goal (目標) ……「個」を高める

●目指す選手像

テクニク・インテリジェンス・パーソナリティー・スピード

⇒自立した選手 埼玉から世界へ



JFAトレセン埼玉U-14

ヘッドコーチ	原山裕輔 (入間市立藤沢中学校)
コーチ	大森健司 (県立草加高校)
コーチ	島崎 秀 (和光市立第三中学校)
コーチ	山田育也 (成立ゼブラ FC)
コーチ	斎藤直希 (ティプロン FC)
コーチ	関谷拓実 (GRAMADO FC)
GKコーチ	安田光貴 (蕨市立第二中学校)
コーチ兼トレーナー	畠中陽介 (JIN 整形外科スポーツクリニック)

●U-14トレセンチームのコンセプト

- ① U-16 国体チームにつながる選手の発掘と育成
- ② 個人戦術の理解を基にしたチームづくり
- ② ポゼッションからの崩し
- ③ トランジションとリスクマネジメント



JFAトレセン埼玉U-15

ヘッドコーチ	稲葉尚哉 (羽生市立南中学校)
コーチ	山下暁之 (県立朝霞西高校)
コーチ	野木悟志 (県立庄和高校)
コーチ	横谷 亮 (大宮アルディージャ)
コーチ	山口昭二 (杉戸町立広島中学校)
コーチ	川口剛毅 (熊谷市立荒川中学校)
コーチ	渋谷荒馬 (深谷市立南中学校)
コーチ	木下勝巳
GKコーチ	小川 駿 (県立南稜高校)
コーチ兼トレーナー	畠中陽介 (JIN 整形外科スポーツクリニック)

●チームコンセプト

『Initiative Football』

～攻守において主導権を握り続け、一瞬の際も与えないサッカーをする～

●攻撃のコンセプト

○ダイレクトプレーを目指す。

○ボールを失わないで攻撃を展開する。

(プレーの原則から導き出される、攻撃の優先順位を考えたアクションを起こす)

●守備のコンセプト

○FWから積極的に守備をする。

○中盤より高い位置でボールを奪い、攻撃につなげる。

(オン・ザ・ボール、オフ・ザ・ボールの守備の原則を全員が理解し、3ゾーンでの守備の仕方を全員で共通理解して守備をする)



編集後記

酷暑が過ぎ、コロナ禍の影響で開催延期となっていた各種別の大会やリーグ戦がスタートしました。Jリーグでは観客制限が徐々に緩和されてきてはいますが、県内・県外の競技会のほとんどは、各種別とも無観客での開催が余儀なくされています。試合会場ではチーム・関係者の健康チェックシートの提出や検温はもちろん、ピッチ内外では試合ごとの入れ替え時間を考慮した上で消毒を徹底、さらに選手交代人数の制限緩和など、さまざまな感染予防対策が講じられています。そうした光景が日常的になってきています。

すでに半年以上が経過しましたが、新型コロナ感染症は現在も収束していません。感染拡大のリスクと常に背中合わせなのだとは自覚を保ち、新しい生活様式に慣れていくことが重要です。試合は戻りつつありますが、選手を後押しする声援や、喜びを分かち合う歓声はまだ届けることができません。もどかしく思われる保護者・関係者の方が大勢いらっしゃることは十分承知しております。しかし今は感染のリスクから距離を保つことを第一に、手探りながら大会を運営する主催者、参加するチームの活動に、ご理解とご協力をお願いいたします。(藤田)